



地域の安全を守る女性消防士

高崎市等広域消防局では、現在29人の女性消防士が各部署で活動しています。今回号では、同消防局で活躍する女性消防士と、大船渡市林野火災の緊急消防援助隊としての活動について紹介します。問い合わせは、同消防局警防課（☎027-324-2216）へ。

●女性職員の任用率は全国平均の約2倍

高崎市等広域消防局の女性職員の任用割合は6.4%で、全国平均の3.5%を大きく上回っています。

●性別の区別なくあらゆる部署に職員を配置

同消防局では、指揮隊や消火隊、救急隊、通信指令室など、ほとんど全ての部署で女性が活躍しています。

●日勤救急隊を創設し、さまざまな働き方を支援

令和3年度に県内で初めて、平日の日勤時間帯に勤務する日勤救急隊を創設。育児休業後の復職支援や育児・介護を頑張る職員の支援など、さまざまな働き方ができる体制を整え、誰もが活動できる環境づくりを行っています。

地域の安全を守る女性消防士を紹介します

職員みんなが働きやすい職場を作る それが署長の役目です

高崎中央消防署長 樋口 千絵美さん

男性が多い職場の中で、女性職員にとっては悩みを相談できる存在に、男性職員にとっては何でも話せるお母さんのような存在になることを目標にしています。また、助けを求める女性の声に耳を傾け、寄り添った対応をしていきたいと思います。今は、女性が社会に求められ、やりたいことができる時代です。地域住民から信頼される、強く優しい消防を目指します。



現場の初動を左右する 非常に重要で責任ある仕事

たかさき消防共同指令センター 指令2係 大澤 あゆみさん



通信指令

火災や事故など住民からの「119番通報」に即時に対応。必要な部隊を現場に出動させ、現場への指示や誘導、統制などを的確に行う。

消防に助けを求める人が最初に話すのが119番通報です。見えない状況を聞き取り、受けた通報をすぐに現場に正確に伝える仕事は、現場とはまた違う緊張感があります。現場の初動を左右する非常に重要で責任ある仕事だと思います。通報者は、一生に一度あるかないかの緊迫した状況に直面していると思われます。まずは柔らかない声で、声かけをすることを心がけています。

育児をしながら日勤救急隊として勤務 最前線で傷病者を救いたい

救急課 救急救命係 秋山 彩夏さん



救急

急病、事故、災害などの救急現場に急行し、傷病者に適切な応急処置を行いながら、医療機関まで搬送。救急救命士は医師の指示のもと高度な応急処置も行う。

看護師の母の影響で救急救命士になりました。119番通報を受けて、最初に駆け付けるのが消防です。最前線で傷病者の手当てに当たりたいと思い消防に入りました。産休中に日勤救急隊ができたので、復帰後はすぐに救急現場に戻ることができました。女性がいてくれて本当に助かったと声をかけてもらったり、お手紙をもらったりすることがあり、日々やりがいを感じています。

県内初、女性消防士を派遣

大船渡市林野火災に緊急消防援助隊を派遣

岩手県大船渡市で2月26日～4月7日に大規模な林野火災が発生しました。これを受け、高崎市等広域消防局は2月28日～3月10日の11日間に渡り、延べ16隊64人を緊急消防援助隊として被災地に派遣しました。



隊員の除染をする様子

女性消防士を県内で初めて緊急消防援助隊に派遣

派遣された隊のうち、県内で初めて同消防局の女性2人が選ばれ、同じ隊に参加した前橋市消防局の女性とともに最前線で支援活動を行いました。災害現場で活動する部隊の食事などの準備や隊員らが泊まる宿営地の管理、物資の買い出し、消火活動から帰ってきた隊員や機材の除染などの業務に当たりました。

被災地で活動した隊員に聞きました 女性も災害現場で活動できると実感しました



警防課
山口 友里さん

東日本大震災をきっかけに消防士を志し、女性が緊急消防援助隊として活動できるよう準備を重ねてきました。普段の訓練の成果を発揮できて誇りに思います。これからさらに女性が活躍できるようにしたいです。



予防課
猿谷 佳苗さん

第3次隊として任務を行いました。現地住民に涙ながらに感謝され、消防士としての使命感と責任を自覚しました。環境さえ整えば、女性も緊急消防援助隊として活動できると思います。この経験を今後に生かしたいです。